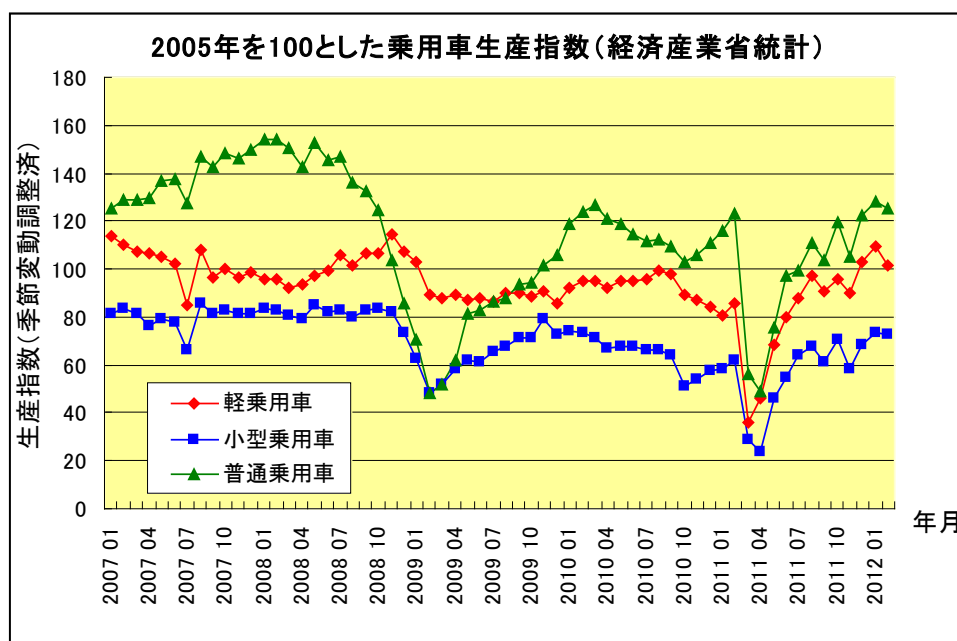
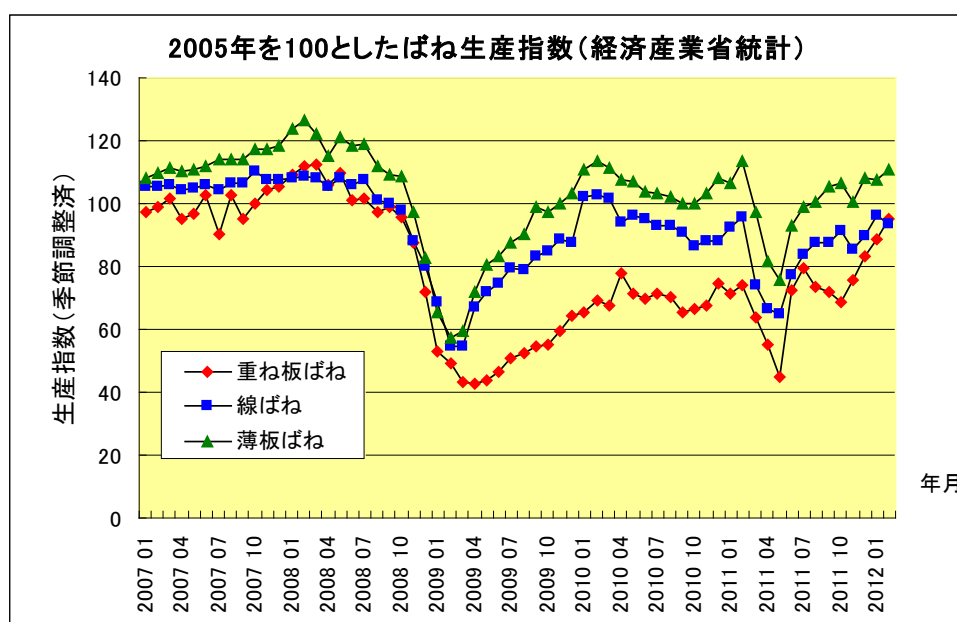


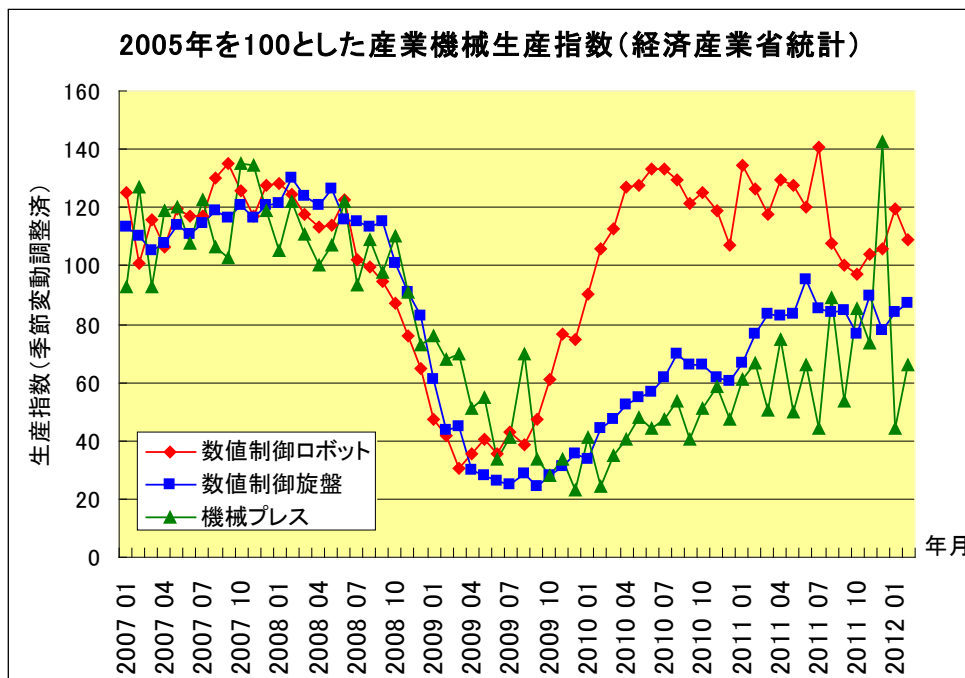
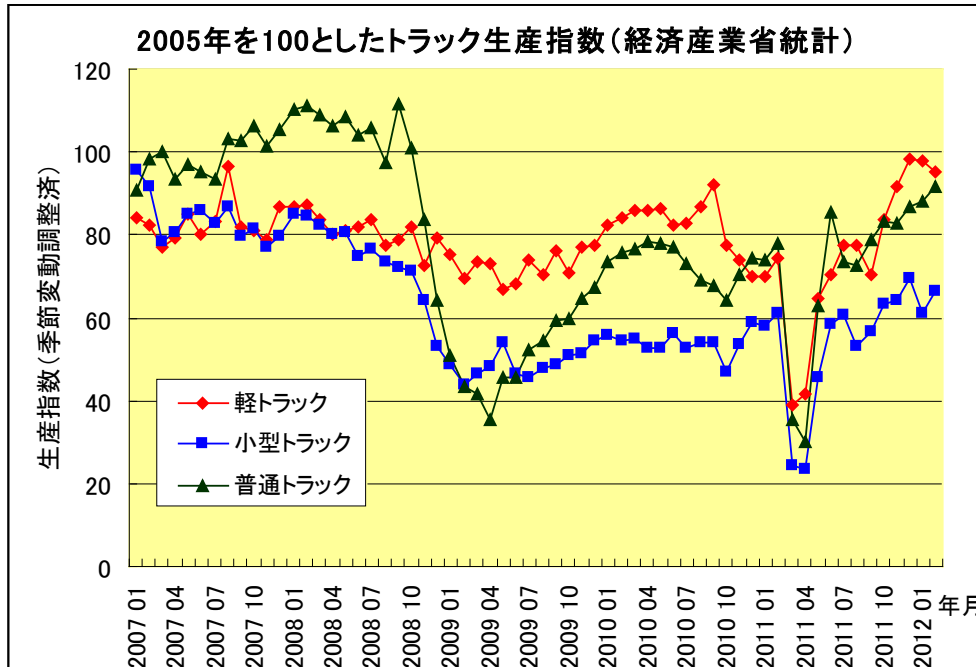
平成24年度事業計画書

I ばね産業の環境

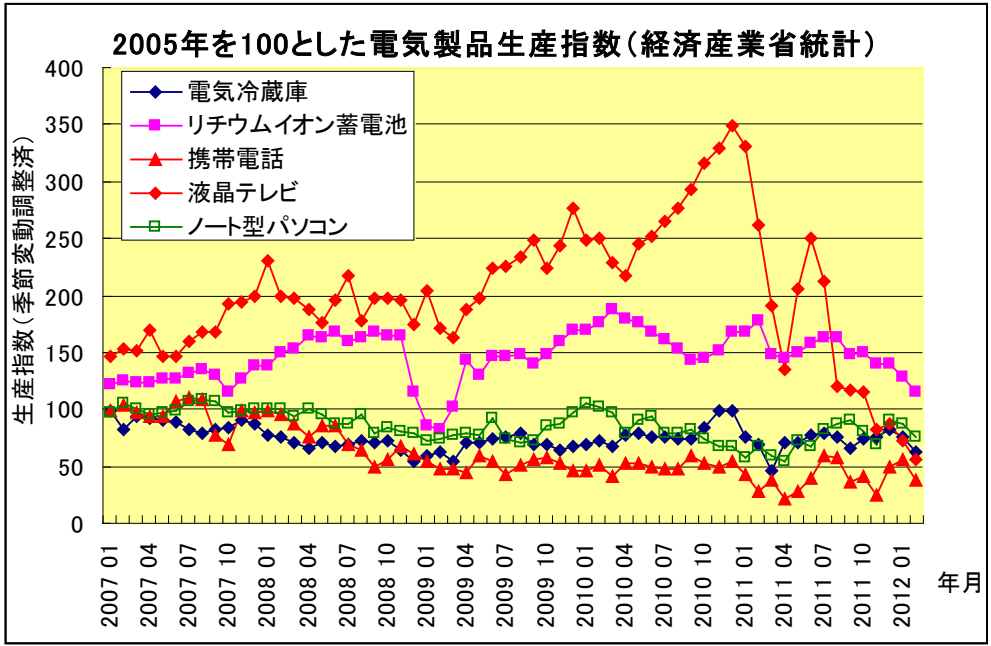
平成23年は3月の東日本大震災および10月のタイの大洪水などの自然災害に加えて、欧州通貨危機による円高・株安の状況が続き、日本企業にとっては大変厳しい年となった。10月31日に1ドル・75円32銭の戦後最高値を更新した後、平成24年3月になって、ドルは82円台、株価も日経平均で1万円台まで回復し、多少の改善がみられるようになってきている。このような三重苦とも四重苦とも言われる状況下において、ばね産業および自動車産業はおおむね2005年、平成17年レベルまで生産量を回復してはいるものの、今後の状況については引き続き不透明な部分も抱えている。



図に示す経済産業省の統計によれば、薄板ばねや線ばねはそれぞれ2011年8月、および2012年1月で2005年レベルまで回復している。さらに、長らく低迷していた重ね板ばねも2012年2月に2005年レベルまで回復している。これは、自動車生産で見た場合、普通乗用車生産が2011年10月で2005年レベルの120%、さらにトラック生産が2012年2月で2005年レベルのほぼ90%まで回復したことによるものと思われる。



自動車以外の分野では、数値制御旋盤などの産業機械ならびにノート型パソコンなどの電気製品も比較的順調に回復している。しかし、液晶テレビに着目すると、2010年12月をピークとして、生産指数は激減している。これは急激な円高も大きな要因ではあるが、同時に海外市場において、アジア諸国、特に韓国との競合に対応できなかったためとされている。



Ⅱ 平成24年度日本ばね工業会の基本方針

1. 活動方針

液晶テレビの例を取るまでもなく、日本の産業は韓国・中国はもとより、アジア諸国と競争する時代となっており、自動車生産台数でみると、2010年の世界生産台数、7,760万台のうち、中国、日本、韓国、インドの合計が3,570万台であり、これにインドネシア、タイ、台湾、マレーシア、フィリピン、ベトナムなどアジア諸国の生産台数合計、330万台を加えると、アジアにおける生産台数は3,900万台となる。すなわち2台に1台の車はアジアで生産されていることになり、この傾向は今後しばらく継続かつ加速されることが予想される。一般社団法人日本ばね工業会としては、欧米のみならずアジア諸国との交流を重要なキーワードとしてとらえている。

本年度は一般社団法人として初年度となるが、引き続き、総務委員会、技術委員会、標準化会議および技能検定委員会の活動を柱として、一般社団法人としての活動を明確に進め、本部事業の充実と支部活動の活性化を図っていく計画である。

総務委員会は、定款に定められた事業のうち他の委員会が所管事項を除く全般的な施策について立案、実施するものとする。事業の実施に当たっては、本部事務局の定常業務を管轄するとともに理事会で議決された特別テーマの遂行などに当たるものとする。ばね業界は大変難しい局面にあるが、今年度は一般社団法人への移行元年として、新生ばね工業会の体制に対応すべく他の3委員会およびばね学会と連携を図りながら、情報発信、国際交流事業などに取り組み、委員会として会員企業相互の活発な交流を図ると共に、一層の理解と協力を得られるよう事業を推進していく。

(1) 一般社団法人への移行について

平成24年4月1日付けで移行登記し、関係所管庁への届け出ほか諸手続きを遅滞なく実施するよう総務委員会を中心となりワーキンググループ並びに事務局による準備への支援を行なう。

新法人移行のこの機会に、ばねの事業者団体としてばね産業の進むべき方向、それを実現するために団体として取り組むべき事業のありかたを取り纏め理事会へ提言する。

(2) 国際交流事業について

三極国際ばね会議日本開催は平成27年度とし、本年度はその準備期間とする。

本年10月にインドで開催される国際ワイヤ産業展示会に視察団を派遣する。

(3) 統計事業について

ばね生産実績調査統計を速やかに行い、広く関係者への閲覧に供する。

会員会社の海外事業展開について4度目の調査を実施する。

(4) 広報活動

機関誌ばねは例年通り隔月6回発行する。

ホームページの充実につとめる。機関誌とともに会員への広報活動の充実を図る。

日本ばね工業会プロフィール(日文・英文併記)を改訂発行する。

(5) 「ばねの歴史」編纂発刊

3年に亘り準備してきた「ばねの歴史」を発行し、会員並びに国内外の関係機関に配付する。

技術委員会は、会員企業の技術者及び技能者のレベル向上を事業の柱とし、品質・安全・環境・コスト等に関する技術の提供、ばね造り技能の習得・向上および伝承、ばね設計技術の向上の三つのテーマに取り組む。

(1) 品質・安全・環境・コスト等に関する技術の提供

講習会および見学会の開催、ばねの技術相談制度の充実、技術資料の機関誌ばねおよびホームページへの掲載。

(2) ばねづくり技能の習得・向上および伝承

公益目的支出計画の柱の一つである 金属ばね製造技能士の育成事業のため、ばねハンドブックの充実、受検希望者を対象とした講習会を開催する。

ばね工業会の独自の表彰である、優良ばね製造技能者の認定数の向上の事業を実施する。

(3) ばね設計技術の向上を目的とした講習会を開催する。

ばね技術初級講座による基礎知識習得、設計技術向上を目的としたばね技術中級、材料力学の講習会、ばね周辺技術（熱処理、表面処理、原価関連等）講習会。

標準化会議は、公益目的支出計画の大きな柱である、ばねに関する規格開発と普及を管轄している。会員ニーズに基づいた規格づくりを進め国内諸規格の整備を図るとともに、諸外国特にアジア諸国との連携を深め、国際規格づくり活動を推進する。

(1) 日本ばね工業会 (JSMA) 規格開発事業

4部会で昨年度実施した既存の全規格の総点検結果を考慮しながら、改正作業を行い、年間2から3規格について改正原案を取りまとめる。

(2) 自動車技術会 (JASO) 規格開発事業

本年度も例年どおり要素部会、車体・シャシ部会の活動に参加する。

(3) ISO規格関係 ISO/TC227 ばねの国際標準化活動

①第8回 ISO/TC227 国際会議への参加。

「ばね記号」のFDIS案の審議。

「重ね板ばね」のCD案の審議。

②国内委員会審議団体としての活動を行う。

③ESFビジネスミーティングに出席し、ISO/TC227 ばねの進捗状況等の情報交換を行う。

(4) 政府関係機関委託事業の推進

政府の標準化委託事業ほかから再委託を受けて以下の事業を推進する。

①国際標準開発事業

日本提案の「ばね記号」のISO規格化を図る。

②貿易投資円滑化支援事業

本年10月に実施を企画している、ベトナムの標準化活動をさらに活性化させることを目的とした研修に協力団体として参画する。

③JIS規格開発事業

B2706「皿ばね」及びB2711「ばねのショットピーニング」の改訂を行う。

技能検定委員会は、公益目的支出計画のもう一つの大きな柱である金属ばね製造技能士検定実技試験を管轄し、各都道府県職能協会から受託して実施する各支部技能検定部会を指導監督する。

本事業の公正で円滑な運営を図るための職業能力開発協会とばね工業会技能検定部会の上に立ち、以下の活動を行う。

(1) 金属ばね製造技能検定実技試験事業

①金属ばね製造技能検定実技試験受託事業の公正で正確な運営と問題点や解決方法の検討。

②事業を円滑に運営するための技能検定部会の運営、及び各都道府県技能検定試験への提案と活動内容の協議。

③中央職業能力開発協会との緊密な関係の保持に努める。

④平成25年1月に予定している技能検定実技試験を公正、透明に実施する。

⑤各技能検定部会の会計報告を適切に実施する。

(2) 国家検定技能士育成の強化への協力

技能士の育成に力を入れた活動をしている技術委員会へ必要な情報を提供するため情報交換会を開催する。